

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	有限会社 友星メディカル グループホーム 唐湊の家
(ユニット名)	グループホーム 唐湊の家 1階
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県鹿児島市唐湊三丁目2 - 4
記入者名 (管理者)	久保 由見子
記入日	平成 19年 7 月 31 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念には掲げていないが朝の申し送り時やミーティング等で地域の中で暮らしていくことをケアに取り入れることを常に意識付けるようにしている		「理念」について振り返ったり見直す機会は作っているが、地域の中でくらししていくことを支えるための思いを言葉として「理念」の中に取り入れていきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り時、職員一同で「理念」を唱和し、ミーティング時など「理念」について確認し合える場をもうけ、意見交換を行っている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	「理念」は誓約書の表紙等に示している。またご家族や来訪者がわかりやすいように受付に掲示しており運営推進会議においても話をしている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買い物時、近隣の方々と挨拶を交わしたり、継続的に近所に住む学生にボランティアでの交流を行っている。又、近くに住んでいた入居者の友人の方々が老人会終了時等、立ち寄って下さっている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	新年会等は公民館を利用し、婦人会の方々や学生ボランティアにも参加していただいている。又、地域のリサイクル活動や夏祭り、おはら祭り等の行事参加も入居者と共に行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議時や「唐湊の家かわら版」を民生員にお届けする際に具体的な地域貢献について話をしている。(現在は地域行事への参加、リサイクル活動、サマーボランティアの受け入れ等)		他にも地域や地域の高齢者等の暮らしに役立つこと、協力すべきことが無いかを常に検討し、取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義を職員に伝え、毎月のミーティング時に検証・評価を全員で行い、改善に向けての検討をし、質の向上に努めている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に運営推進会議を行い、事業所の活動報告をすると共に、互いに意見・要望を話し合っている。評価報告も行っている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	年に1回～2回相談員の受け入れをしている。		質問等で問い合わせることはあるが、常に情報を共有し、質の向上を図りたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会にて地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を作っており、現在利用されている入居者もおられる。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修への参加や勉強会を通じて虐待の意味を理解し、防止に努めている。また虐待対応マニュアルも作成し徹底している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は重要事項説明者に基づいて、十分な時間を取り説明している、又、医療連携体制や苦情相談等については詳しく説明をしている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者のしたい事、して欲しい事ノートを作成し、利用者の立場に立った意見を聴ける、活かせる様にしている。又、介護相談員も派遣していただき、運営の参考にしている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の来訪時には声をかけ近況を報告している。定期的に「かわら版」を発行し、面会の少ないご家族へは定期的に電話等で近況を報告し、意見を聴いている。又、金銭に関しては出納帳を作成しサインをいただいている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族には来訪時や近況報告時に常に問いかけ意見を引き出す雰囲気作りに努めている。又、意見箱の設置や苦情相談窓口も掲示をしている。</p>	<p>今後も些細な事でも気軽に話せる雰囲気作りに努め、それらを運営に反映させて行きたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月のミーティングや朝の申し送り時に意見を聞くように心がけている。</p>	<p>職員全員がいつでも意見を出し合い、チームとしての力が発揮できるように心がけ、質の向上に努めて行きたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>24時間体制の勤務表を作成し、勤務を行っている。入居者本位の暮らしを支援できる人員配置や調整を行っている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>新しい職員が入る場合や、異動がある場合、きちんと利用者へ紹介・あいさつを行っている。また家族にも面会時や行事の際に挨拶・紹介を行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>経験・人材ともに優秀な職員の確保ができており助言できる職員が存在し、隔月で勉強会を行っている。又、外部への研修の参加ができる機会を作っている。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者は同業者が集まる管理者会議へ参加し、交流・意見交換を行っている。又、職員も入居者と共に他のGHとの相互訪問も行っている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>個別に相談に応じ、ストレスや悩みを言い出せる雰囲気を作っている。又、少しの時間でも入居者と距離を置いて休憩をとれる量の部屋の確保が出来ている。</p>	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>資格取得に向けてのサポートを行い、又、資格を活かせる環境づくりに努めている。又、介護労働安定センターが行っている健康悩み相談への利用も行っている。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用開始前までにできる限り本人と直接お会いし、本人がおかれている状況や不安を受け止め、家族と共に安心して暮らしていける様に努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人がおかれている状況や経緯を理解し、家族も含め、何を求めているかを受け止め、事業所の運営理念やサービスを実際に見ていただき、信頼関係を築く努力をしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族の現況・想いを伺い、早急な対応が必要と思われる場合は、他事業所への紹介をしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族はもちろん、ご本人にも出来る限り見学にきていただき、納得した上での入所を心がけている。又、入所後しばらくはご家族の協力(面会等)が必要であることを説明している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	行事計画や献立作成等一緒に考える様に努めている。又、昔ながらのもの、調理方法・ならわし等利用者の方に教えていただきながら、共に作業を行ったりしている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時等、日々の生活ぶりや本人の発言、身体状況をできるだけ細かく報告することに努め、過去の情報なども積極的に聞き出し、今後につなげる努力をしている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事の際は必ず案内を差し上げ、出来るだけ参加していただける様に心がけている。又、面会時は居室でゆっくり、お茶を飲みながら、食事をしながら会話を楽しんでいただいている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	古い友人の方なども家族同様に面会に来てくださったり、買い物も近所のスーパー等へ日常的に出かける努力をしている。又、近所に住む学生の方とも継続的に行き来している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お茶や食事は出来るだけ職員も一緒に摂る様にし、耳が遠い等でコミュニケーションが上手くいかない時は職員が間に入り、コミュニケーションを図っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院等、体調の低下で退居された方が多く、しばらくは見舞いに行ったり、情報を尋ねたりするが、継続的には行っていない。他事業所へ移られた方の中には職員同士の情報交換は行っているが、支援にはつながっていない。		お見舞いへ行ったり、遊びに行く機会を継続的に設け、関係を断ち切ることなくフォロー出来るように工夫する。
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の生活の中で、一人ひとりと向き合う事に努め、「したい事」「して欲しい事」を聞き出す努力をし、実行へつないでいる。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に、家族やご本人から出来るだけ多くの情報を聞き取る様にしている。又、入居後も会話の中から少しずつでも情報を聞き出し、共有する様に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員はケアプラン見直し時や日々の生活の中で生活リズムを把握し、理念に基づいて出来ることを大切に、また、出来ることを見つけ出し、増やしていける様努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ミーティング時にスタッフ全員で、現況や問題を話し合っている。又、面会時や現況報告時には家族の要望を聞き、ご本人も含め意見交換を行っている。		ご本人や家族が受け身的なところもあり、介護計画を受容しているような感じの時もある。いつでも気軽に率直な意見交換が出来る機会や雰囲気作りに努めていきたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度モニタリングを行い、本人や家族の要望・意見を伺い、状態の変化や要望等の変化があれば、その都度介護計画の見直しをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中での発言、喜び、気づきエピソード等を記録する様にしており、又、外出の状態や身体的(医療関係の記録)等も個別に行い、職員は確認するようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて通院や送迎等の必要な支援は柔軟に対応し、又、医療機関との連携を図り、緊急時に柔軟に対応できる様にしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	公民館の利用や地域の学生によるボランティアを継続的にお願いしている。又、馴染みの民生員さんへ足を運んでいただき、散髪(カット)をお願いしている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ボランティアセンターを活用し、ボランティアのお願いやサマーボランティアの受け入れも行っている。		他にも利用できるサービスを検討し、取り入れて行きたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて地域包括支援センターと協働している。実際に権利擁護を利用している入居者もいらっしゃる。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望するかかりつけ医となっており、状況に応じて、受診や送迎の支援も行っている。又、協力医療機関については、職員が代行することも多く、その都度結果をご家族に報告している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関を確保し、必要時は専門医の受診を行ったり、意見を聞いたりしている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	各ユニットに看護師がおり、常に利用者の健康管理を行っている。又、かかりつけ医の看護師とも連携ができており、情報の交換等を行なっている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は本人への支援方法等を医療機関へ提供し、頻繁に職員が他の入居者も一緒に見舞っており、医療機関や家族とも情報交換や相談を行っている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日常の健康管理や状態変化の把握に努め、ご本人やご家族の思いを大切にしその都度かかりつけ医・家族・職員間で話し合いをしている。急変時の対応についても医療機関との連携を行っている。		個々に合わせた現実的な方針を家族・かかりつけ医・全職員で共有し、話し合う機会を繰り返し行うことによって、将来への不安を軽減し、安心して暮らして行ける。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご本人や家族の思い・意向を大切に、将来について話す機会を作っており、状況変化に応じて繰り返し話をし、支援していける環境づくりに努めている。急変時の対応についても医療機関との連携を行っている。		将来について話す機会を作り、意向や不安を受け止めるようには支援している。話し合いや勉強会を繰り返し行い職員全員でしっかり対応できるようにレベルアップに努めて行きたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご家族はもちろんのこと、保健医療福祉関係者とは、情報提供書等にて情報交換や話し合いを行い、環境変化による混乱を最小限に食い止める様にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない</p>	<p>一人ひとりを尊敬し、向き合い、個々の思いを受け止めることを常に心がけ、努力している。勉強会やミーティング時にも職員の意識向上を図っており、家族やボランティア受け入れ時にも同意書をいただいている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>入居者一人ひとりの希望を聞きだすことを大切にしている。行事計画や入浴の希望、食事の献立等を入居者に決めていただき、ほとんどの取り組みにおいて入居者中心になるように心がけている。</p>	<p>性格的なもので思いをうまく表現できない方もおられるため、個性を理解し、全ての方が自分らしく暮らせるように支援して行きたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者が自分らしいペースで暮らせる様、買い物や散歩等、個々の状態や思いを配慮しながら柔軟に対応している。入浴も希望に添い、自由な時間にいつでも対応している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>美容院は本人の望む所や、馴染みの民生員さんの訪問理容を利用している。又、洋服はほとんど自分で選び更衣をしておられる。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>献立は一緒に考えることを基本としており、下ごしらえ等は出来る限り、参加(一緒に)していただき、職員も一緒にテーブルで会話を楽しみながら食事をしている。又、食べこぼし等のサポートもさりげなく行っている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの嗜好物を把握しており、さりげなくサポートしながら自由に楽しめる様にしている。又、お酒等の購入も一緒に買い物へ出かけている。皆で梅酒作りなども楽しみながら支援している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>入居者の排泄パターンを把握し、個人の状況に合わせて支援している。又、入居時、はくパンツや尿とりを使用していた方も下着に尿とりバットだけへと努力している。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴は一人ひとりの希望にあわせて、曜日や回数、時間を決めずに行っている。又ゆず風呂等も取り入れ楽しんで頂いている。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>夕食後は温かい飲み物を飲みながら、ゆっくり過ごしていただき、出来るだけ、自然で快適に入眠できる様に支援している。又、日中の活動を促し、生活リズムを整える様努力している。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>掃除・食器洗い・洗濯物たたみ等の得意なことを自由に出る様支援しており、職員も楽しみながら一緒に行っている。又、外出や外食の希望等、会話の中から見い出す努力をしている。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>入居者の個性の中で希望や力量に応じて支援を行っている。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>散歩・買い物・ドライブ等、本人の希望や体調をみながら行っている。又、外食や外出は希望に添える様努力している。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>行事計画の中に取り入れれたり、個別に外出をしたり出来る限り職員で話し合いながら行きたい所へ出かけられる様にしている。又、家族へも希望を伝えたりして協力をいただいている。</p>		<p>すぐの対処ができない時もある。出来るだけ行きたいときにいきたい所へ出かけられるように支援して行きたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの電話は自由に使用され、ご家族や親族等へ電話をかけたり受けたり出来る様に支援している。又、面会が少ない時や遠方の方へは声かけをしたりしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族や友人が気軽に来ていただけるように職員の接遇の強化を心がけている。又、面会時間等の制限も作らずご家族の面会時はゆっくり居室でお茶を飲んだり、食事を摂っていただいている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロに向けてのケアマニュアルを作成し、職員は認識している。又、ミーティングや勉強会においても自覚していない身体拘束がないかを振り返っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけない自由な暮らしを職員全員で認識しており、外出しそうな時は状況に応じて、一緒について行く、後方から見守る等の工夫をしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常に入居者の側にいるように心がけており、記録等も入居者と会話をしながら身近で行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤等は扉の中やカーテンで目隠しをする等の工夫をしており、包丁等はその都度手渡して使っていただき、他は、扉の中に片付ける様にしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットや事故報告書・対策検討表を作成しており、再発防止の為に、職員が共有し活用している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成しており、全ての職員が把握している。又、応急手当や初期対応の訓練を勉強会時に繰り返し行っている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、避難訓練等を、入居者とともに年2回行っている。又、運営推進会議時や訓練前など、近所にも声かけを行っている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ご家族の面会時や現況報告時に入居者それぞれの状態を細かく報告し、リスクに関しても説明する様に心がけている。		
つ				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックや食事量の把握を毎日行い、体調の変化や異変の早期発見に努めている。又、職員間で情報が共有できるよう、申し送りの記録や医療機関受診時の記録個別を行っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の作用等を把握できるようにファイルを作成し、変更があったときは申し送りにて把握している。又、服薬後の状態も確認している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	牛乳やヨーグルト等の乳製品や、食物繊維の多い食品を重視し、献立を考へており、水分補給にも努めている。又、排便の状態を把握し、下剤の調整等を医師と連携し行っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを行うように支援している。又、定期的に歯科への受診も行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を毎日記録しており、状況に応じて、食事内容別や水分摂取量・排尿量のチェックも行っている。又、職員全体が個々の嗜好を把握しており、献立の工夫を行っている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に対するマニュアルを作成している。又、予防接種等も実施している。ドアや手すり等の消毒も徹底して行っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫や保存庫の点検は頻繁に行っており、毎日、買い物へ出かけ、新鮮で安全な食材を使用している。又、調理用具や布きん、まな板の消毒も毎日行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホームの正面の花壇に花を植えたり、玄関の入り口に季節の草花等を置くなどし、誰もが入りやすい雰囲気作りに努めている。又、玄関先や玄関にソファや縁台を置いており、一息ついてお茶を飲んだりするスペースとして活用している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾りつけは利用者と一緒に作り、飾り付けている。又、対面式キッチンとなっているため、台所からの匂い、食器を洗う音等がいつも自然である。ゆず湯・かしわ餅・さくら餅・鍋料理等により、季節感を味わえる工夫をしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールや、玄関先、廊下等にソファや縁台、イス等を置いてあり、それぞれくつろげる場所で自由に過ごしてもらえる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や位牌等を持ち込んでおられる方もおり、その人らしく過ごせる空間作りに努めている。又、写真や手作りカレンダーを貼ったりしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度計や湿度計を設置し、こまめにチェックし、空気の入換えや温度調節を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台の高さは2段階になっており、それぞれの状態に応じて利用している。洗濯物干しも使い勝手を考え、購入した。浴槽内にも滑り止めマットを使用し、安全確保と自立への配慮をしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室に表札を設置したり、トイレ等には遠くからでもわかりやすいような目印をつけ、混乱を防いでいる。又、それぞれ不安要因を見つけ出し、工夫をする努力を職員一同で行っている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関にソファを置き、玄関先には縁台を設置する等し、入居者はそれぞれの場所で外の風情を楽しんでいる。又、家庭菜園の手入れや野菜の収穫、草花の手入れなど職員と一緒にしている。		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

常に入居者と向き合う事を心がけ、日々の生活の中で出来ること・出来ないこと、したい事・して欲しい事を見出し、ホーム内に閉じこもることなくレクリエーションや外出・外食を共に楽しみ過ごしている。

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	有限会社 友星メディカル グループホーム 唐湊の家
(ユニット名)	グループホーム 唐湊の家 2F
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県鹿児島市唐湊3丁目2番4号
記入者名 (計画作成担当者)	橋口 英子
記入日	平成 19 年 7 月 31 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念には掲げていないが朝の申し送り時やミーティング等で地域の中で暮らしていくことをケアに取り入れるように常に意識付けている		「理念」について振り返ったり見直す機会は作っているが、地域の中で暮らしていくことを支えるための思いを言葉として「理念」の中に取り入れていきたい
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り時、職員一同で「理念」を唱和しミーティング時等「理念」について確認し合える場をもうけ意見交換を行っている		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	「理念」は契約書の表紙等に示している。また家族や来訪者が分かりやすいように2F受付横に掲示している。運営推進会議においても話している		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買い物時、近隣の方々と挨拶を交わしたり継続的に近所に住む学生が来られボランティアでの交流を行っている		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	新年会等は公民館を利用し婦人会の方々や学生ボランティアにも参加して頂いている。又地域のリサイクル活動や夏祭り、おはら祭り等の行事参加も利用者と共にしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議時や「唐湊の家のかわら版」を民生員にお届けする際に具体的な地域貢献について話をしている(現在は地域行事への参加、リサイクル活動、サマーボランティアの受け入れ等)		他にも地域や地域の高齢者等の暮らしに役立つこと、協力すべきことがないが無いかを常に検討し取り組んでいきたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義を職員に伝え毎月のミーティング時に検証、評価を全員で行い改善に向けて検討し質の向上に努めている		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に運営推進会議を行い事業所の活動報告をすると共に互いに意見、要望を話し合っている。評価報告も行っている		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	年に1回～2回相談員の受け入れをしている		質問等で問い合わせることはあるが、常に情報を共有し、質の向上に努めたい
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会にて地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を作っており現在、利用されている入居者もおられる		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修への参加や勉強会を通じて虐待の意味を理解し防止に努めている。虐待対応マニュアルも作成し徹底している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は重要事項説明書に基づいて十分な時間を取り説明している。又、医療連携体制や苦情相談等については詳しく説明をしている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者のしたい事、してほしい事ノートを作成し利用者の立場に立った意見を聴ける、活かせる様にしている。又、介護相談員も派遣して頂き運営の参考になっている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族等の来訪時の際は声をかけ日頃の利用者の状況を報告している。又、心身の状況で変化や問題が起きたらその日に電話で報告、相談をしている。来訪が見えない家族には定期的に電話で報告している。又、金銭に関しては出納帳を作成しサインをいただいている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族から意見、要望等はミーティングで話し合い反映されている。意見箱の設置や苦情相談窓口も掲示している</p>		<p>今後も些細な事でも気軽に話せる雰囲気作りに努め、それらを運営に反映させて行きたい</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月のミーティングや朝の申し送り時に意見を聞くように心がけている</p>		<p>職員全員がいつでも意見を出し合い、チームとしての力が発揮できるように心がけ、質の向上に努めて行きたい</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>24時間体制の勤務表を作成し勤務を行っている。利用者本位の暮らしを支援できる人員配置になっている</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>新しい職員が入る場合や異動がある場合きちんと利用者や家族への紹介、挨拶を行っている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>経験、人材ともに優秀な職員の確保ができており助言できる職員が存在し隔月で勉強会を行っている。又、外部への研修の参加ができる機会を作っている</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者は同業者が集まる管理者会議へ参加し交流や意見交換を行っている。又、職員も利用者と共に他グループホームとの相互訪問を行っている</p>		<p>他のグループホームとの交流を行っているが回数が少ない。今後、他のグループホームとの交流会(風船バレー大会など)企画中である</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>日常の中で職員のストレスや悩みを把握するよう努めている。畳があるスタッフルームにて少時間でも利用者との距離を置いて休憩をしている</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>資格取得に向けてサポートを行い取得後は職場内で活かせる環境作りに努めている</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>サービスを利用する前は必ず本人に会って思いや不安を受け止め本人に安心してもらっている</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族が求めているものを理解し事業所としてはどのような対応ができるか事前に話し合いをしている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の現況・想いを伺い、早急な対応が必要と思われる場合は他事業所への紹介をしている		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用する前に本人、家族には見学に来て頂き他の利用者、職員と一緒にお茶を飲みながら会話を楽しんだりしホームの雰囲気を分かってもらえるように努めている		
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は常に利用者一人ひとりその人らしい尊厳ある姿を大切に、暮らしの中で利用者の方々には得意分野で力を発揮する場面が多くお互いを支えあう関係性が自然に見られている		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日頃の利用者の様子や気づきを伝え家族の思いに寄り添い一緒に考えていける関係性ができている		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事がある際は事前に家族に案内を差し上げ出来るだけ参加して頂けるように心がけている。面会時は居室でお茶を飲んで頂きゆっくり過ごしてもらっている		行事がある際は事前に家族に案内を差し上げ出来るだけ参加して頂けるように心がけているが、仕事をされている家族がほとんどでなかなか都合がつかず参加が少ない状況である。手紙をご自身で書いてもらったり電話を利用して関係性が途切れないように留意する
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所に住まれている夫に会いに帰られたり買い物も近所のスーパー等へ日常的に出かける努力をしている。又、近所に住む学生の方とも継続的に行き来している		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個別に話をしたり悩みを聴いたりしている。みんなで楽しく過ごす時間や場面作りをするなど利用者同士の関係がうまくいくように職員が間に入り支援している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院等、体調の低下で退居された方が多くしばらくは見舞いに行ったり、情報を尋ねたりするが、継続的には行ってない。他事業所へ移られた方の中には職員同士の情報交換は行っているが支援にはつながっていない		お見舞いへ行ったり、遊びに行く機会を継続的に設け、関係を断ち切ることなくフォロー出来るように工夫する
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は一人ひとり向き合う事に努め「したい事」「して欲しい事」を聴きだす努力をし実行へつないでいる		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に本人や家族、関係者から情報を聴き取るようにしている。利用後も会話の中でどのように生活をしていたのか把握するようにしている		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの生活のリズムを理解し「出来ること」「やりたい事」を見極めその方、全体の把握に努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ミーティング時に職員全員で、現況や問題を話し合っている。又、面会時や現況報告時には家族の要望を聴き本人も含め意見交換を行っている		本人や家族が受け身的なところもあり、介護計画を受容しているような感じの時もある。いつでも気軽に率直な意見交換が出来る機会や雰囲気作りに努めていきたい
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度モニタリングを行い利用者の状態変化や本人、家族の要望に応じて見直しを行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し日常生活動作表や介護サービス実施記録に日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソード等を記録している。いつでも職員は確認するようにしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて通院や送迎等の必要な支援は柔軟に対応し又、医療機関との連携を図り緊急時に柔軟に対応できるようにしている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	公民館の利用や地域の学生によるボランティアを継続的にお願いしている。又、なじみの民生員さんへ足を運んで頂き散髪(カット)をお願いしている		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ボランティアセンターを活用しボランティアのお願いやサマーボランティアの受け入れも行っている		他にも利用できるサービスを検討し取り入れていきたい
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて地域包括センターと協働している。実際に権利擁護を利用している入居者もいらっしゃる		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっており状況に応じて受診や送迎の支援も行っている。又、協力医療機関については職員が代行することが多くその都度、結果を家族に報告している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関を確保し必要時は専門医の受診をし指示や助言をもらっている		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	各ユニットに看護師がおり常に利用者の健康管理を行っている。又かかりつけ医の看護師とも連携ができており情報の交換等を行っている		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には本人の看護・介護サマリーを医療機関に情報提供し、頻繁に職員が他の利用者と一緒に見舞っている。又、なるべく早く退院できるよう医療機関や家族とも情報交換や相談を行っている		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日常の健康管理や状態変化の把握に努め、本人や家族の思いを大切にしその都度、かかりつけ医・家族・職員間で話し合いをしている。急変時の対応についても医療機関との連携を行っている		個々に合わせた現実的な方針を家族・かかりつけ医・全職員で話し合う機会を繰り返し行うことによって、将来への不安を軽減し、安心して暮らしていける
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人や家族の思い・意向を大切に、将来について話す機会を作っており、状況変化に応じて繰り返し話をし、支援していきける環境づくりに努めている。急変時の対応についても医療機関との連携を行っている		将来について話す機会を作り、意向や不安を受け止めるように支援している。話し合いや勉強会を繰り返し行い職員全員でしっかり対応できるようにレベルアップに努めていきたい
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	新しい住まいでもダメージなく生活して頂けるように本人の状況、習慣、好み、これまでのケアの工夫等の情報を詳しく伝え暮らし方の継続性を配慮している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>周囲の方へも気を配りその都度、さりげなく排泄の誘導を行っている。勉強会やミーティング時にも職員の意識向上を図っており家族やボランティア受け入れ時も同意書を頂いている</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>行きたい場所や食事のメニュー、買い物などで利用者の希望をとり入れ日常的に自己決定や希望の表出の機会を作りだしている</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>起床や食事、入浴の時間は利用者のペースを守り業務を優先させる事がないよう日々気をつけている</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>家族の方が来られ散髪(カット)をされたり、なじみの民生員さんの訪問理容を利用している。好きな髪形や服装など個々におしゃれを楽しんでおられる</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>一緒に買い物に行く機会を作り食事の下ごしらえや味つけなど利用者の好みや力を個々に活かしながら支援に努めている。利用者と職員は同じテーブルを囲んで楽しく食事ができている</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>職員は一人ひとりの嗜好を把握しており、さりげなくサポートし楽しめるように支援している。又、栄養ドリンク、お酒等の購入も一緒に買い物へ出かけている</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	一人ひとり排泄パターンを把握しその方の行動からサインをみつけトイレ誘導をする事でトイレでの排泄をしている		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	希望者は毎日、入浴して頂いている。好みの時間でゆっくりと入浴できるように支援している		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	なるべく日中の活動を促し生活リズムを整えるよう努めている。又、個別の疲れ具合に合わせて個別にベッド、畳、ソファで休憩を取り入れている		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	歌を唄ったり、絵を描いたりと趣味を活かして楽しんでおられる方がいる。個々に得意分野の仕事を頼み感謝の言葉を伝えるようにしている		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	家族の協力を得てご自分の財布にお金を持っている方もいる。利用者の希望や力量に合わせて支援を行っている		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	一人ひとりの希望にそって買い物、外食、散歩、ドライブ、行楽地に行くなど外出の機会を作っている		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	行事計画の中に取り入れれたり個別に外出をしたりと出来る限り職員で話し合いながら行きたい場所へ出かけられるようにしている。又、家族へも希望を伝えたりして協力を頂いている		すぐの対処が難しく行きたい所へ行きたい時に支援できる様に支援していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの電話は自由に使用され家族や親族等へ電話をかけたり受けたりできる様に支援している		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人が気軽に来て頂けるように職員の接遇の強化を心がけている。又、面会時等の制限も作らず家族の面会時はゆっくり居室でお茶を飲んだりしてもらっている		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロに向けてのケアマニュアルを作成し職員は認識している。又、ミーティングや勉強会においても自覚していない身体拘束がないか振り返っている		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠のない自由な暮らしを目指し実践している		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常に利用者を見守りやすい位置におり様子を把握している。記録も利用者の身近で行っている		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤等は扉の中やカーテンで目隠しをする等の工夫をしており包丁等はその都度、手渡しして使って頂き他は扉の中に片付ける様にしている		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒラリハットや事故報告書・対策検討表を作成しており再発防止の為に職員が共有し活用している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成しており全ての職員が把握している。又、応急手当や初期対応の訓練を勉強会時に繰り返し行っている		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て避難訓練等を利用者と共に年2回行っている。又、運営推進会議時や訓練前など近所にも声かけを行っている		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族の面会時や現況報告時に利用者それぞれの状態を細かく報告しリスクについても説明する様に心がけている。又、職員も周知している		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックや食事量の把握を毎日行い体調の変化や異変の早期発見に努めている。又、職員間で情報が共有できる様に申し送りの記録や医療関係の記録を行っている		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の作用等を把握できるようにファイルを作成し変更があった時は申し送りにて把握している。又、服薬後の状態も確認している		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を採り入れている。レク活動や家事仕事等身体を動かす機会を適度に設けている。又、排便の状態を把握し下剤の調整等を医師と連携し行っている		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	利用者の状態を見て食後の口腔ケアを行っている。又、定期的に歯科への受診も行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとり食事摂取状況を毎日チェック表に記録し職員が情報を共有している。水分量が少ない利用者の方には特に水分補給をすすめ摂取状況や排尿の量を確認している。		栄養士が中心になり栄養バランスを考え献立の工夫をしている
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に対するマニュアルを作成している。又、利用者及び家族に同意いただき職員共にインフルエンザ予防接種を受けている		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫や保存庫の点検は頻繁に行っており毎日、買い物へ出かけ新鮮で安全な食材を使用している。又、調理用具や布きん、まな板の消毒も毎日行っている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホーム正面の花壇に花を植えたり、玄関入り口に季節の草花等を置くなど皆様が入りやすい雰囲気作りに努めている		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や置物を置いて季節感を感じられる様に利用者の方と一緒に飾りを作りリビングに装飾している。テーブル、テレビ、ソファ、鏡台など配置し家庭的な生活空間作りを努めている		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳、玄関ホール、ソファにて独りで過ごしたり仲の良い利用者同士でくつろげるスペースを作っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた日用品や位牌、写真を持ち込んでおられる。その方らしく過ごせる空間作りに努めている。利用者の方が描いた絵や手作りカレンダーを貼ったりしている		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度計や湿度計を設置しこまめにチェックし空気の入換えや温度調節を行っている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台の高さは2段階になっており、それぞれ状態に応じて利用している。洗濯物干しも使い勝手を考え購入した。浴槽内にも滑り止めマットを使用し安全確保と自立への配慮をしている		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室の入り口に利用者名の入った表札を設置したりトイレ、浴室等目印をつけている。又、それぞれ不安要因をみつけだし工夫をする努力を職員一同で行っている		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先には縁台を設置する等し、利用者はそれぞれの場所で外の風情を楽しんでいる。又、家庭菜園の手入れや野菜の収穫、草花の手入れなど職員と一緒にしている		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

常に利用者と向き合う事を心がけ、日々の生活の中で出来ること・出来ないこと、したい事・して欲しい事を見出し、ホーム内に閉じこもることなくレクリエーションや外出・外食を共に楽しみ過ごしている。